
parallel magic

塩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

p a r a l l e l m a g i c

【Nコード】

N 4 5 6 4 Z

【作者名】

塩

【あらすじ】

浮抹のデビュー作 あらすじはいずれかきます

Scene 1 .

頭が痛い。

目の前にはいつもと同じ青い空。

だが、周りの景色は一変していた。

「……え？」

うまく状況が呑み込めない。

まず、元いた場所を思い出そうとする。

でも、記憶はばやけていて、はつきりしない。

次に名前。こちらでもいい出せない。

年齢、住所、家族……自分に関わるすべての情報が欠落している。

これは「記憶喪失」というやつだろうか。

そして、周りの景色。

中世ヨーロッパ風の建物が遠くにちらほらと見える。見覚えなどない。

要するに、私はどこか知らない場所に飛ばされ、記憶も失ったということだ。

……そうか、私は今とてつもなく大変な状況に置かれてるのか。状況は呑み込めた。が、この不可思議な状況に変化はない。

いろいろ考えた挙句、まず人を探すことにした。

とりあえずどこかに泊めてもらわないと元いたところに帰る前に死んじゃう。

人はおもうよりたくさんいた。人里離れたところじゃなくてよかった。

だがしかし何かおかしい。

みんな私から距離を置き、何か陰でヒソヒソ話している。

『魔女だ……魔女がとうとう……』

『近づくな！世界に破滅をもたらす魔女だぞ！殺されるっ！』

「ちよっと！どういっつもりよ！？」

私が怒鳴りつけると、『魔女が怒ったぞー！』と人々は逃げて行った。

どうもこの村には何か魔女に関する噂とか伝説があるのらしい。だがそれとこれとは別！見ず知らずの人間に『魔女』はひどい！何だか、前途多難のような気がしてきた。

そして、その予感当たった。

村中歩いてても誰も話を聞いてくれないのだ。

店に入ると追い出され、道を歩けば石をぶつけられる。

飛んでくる石を避けつつとうとう村はずれの森まで来た。ここから先に人は住んでいなさそうだ。

「洞窟とか廃屋とかあればいいんだけど……」

そう思って、私は森に入った。

私は、溜め息をついた。

どれだけ歩いても景色に変化がない。どこまで行っても木しかない。

だんだん暗くなってきた。おまけに鵲のような鳴き声までする。

「本物の魔女でも出てきそうね」

その時、雷が鳴った。

割と近くに落ちたらしく、大きな音に驚いた私は慌てて音と反対方向に走った。

すると突然、森が開けたのだ。

そこには古ぼけた大きな屋敷。あちこちひびが入り、ツタが絡んでいる。

屋敷から人が出てきた。少年のようだ。私は慌てて近くの木の陰に隠れる。

少年は私の隠れている木の近くへ来て、言った。

「いらつしゃい。待っていたよ、魔女さん」

私は驚いた。

To Be Continued — ?

Scene 2 .

「とりあえず出てきなよ。この状態で話するのもなんだし」

少年にそう言われ、私は木の陰から出た。

少年は思ったより背が高かった。片メガネがきらりと光る。

「待っていたってどういう事？」

私が聞くと、少年は笑って答えた。

「僕は君が来ることを予感してたからね」

「ふざけてるんですか。それとも頭がおいしいんですか」

「まあ説明は後回し。どうせ行くあてないんでしょう。うちにおいでよ」

寒さと孤独と空腹には勝てないであろう。

わたしは少し間を置いて首を小さく縦に振った。

「良かった。いろいろ聞きたいこともあるんだ。平行世界へのトリップを体験した君に」

「えっ、ちよっと！何のこ……」

「ほら、ごちゃごちゃ言っでないでついてきて！」

屋敷の方へ歩いていく少年を私は慌てて追いかけた。

屋敷に入ると、まず目に入ったのは美しい内装。……を台無しにするほどの大量のゴミ。

口を開けてゴミの山を見てと

「いやー。片づけが面倒すぎてどんどんたまっちゃってねえ」

という解説になってない解説が入った。

「家政婦でも雇うべきかなあ」

そう言っで、何かに気づいた彼は私を見た。

そして要件を思い出した私は彼をまくし立てた。

「あんたのお家事情なんざどうだっていいのよ！平行世界？トリップ？それと私になんの関係があるってのよ！？」

「まあまあ落ち着いて。とりあえず座ってよ。話はそれから」

少年はそう言って椅子を引いた。私はおとなしく座る。

「コーヒーしかないけどいい？」

別にいいけど、とそっけなく答えて落ち着いたふりをする。

でも実際は全く落ち着けてない。トリップって何？平行世界？理解できない。

わかるのは私は、私の知らない所で起きた大きな何かに、影響されたということだ。

「お待たせ。淹れたてだから火傷しないようにね」

少年がコーヒーを持ってきた。

「さあ、いろいろ説明してもらいましょうか」

私がそう言うと、少年はにやりと笑った。

「そうはいかないよ。こんなチャンス二度とないからね」
悪戯を思いついた近所のガキと同じ顔をした。

「住み込みでうちの片づけと家事、やってくれない？」

予想通りすぎる。

「じゃあ……前向きに検討します」

「給料は払うよ？それに住み込みだからそれなりの暮らしだってできるし」

少年は服についたホコリを払いながら言う。

「働いてくれば生活費はこちらで持つから、少しは余裕もできる。君の身に何が起こったかもわかる範囲で話す」

「なかなかの条件ね」

「断つてもいいけど、その時は野宿＋トリップの事もわからない。どうする？」

ああ。人の弱みに付け込むわけね。見上げた根性だ。

「いいよ。ここで働いてあげる。その代わりちゃんと条件は守りなさいよ！」

「そう来なくっちゃ」

こうして私は住む所と働き口をゲットしたわけである。
でもなぜだろう。彼に全く感謝したくないのは。

To
Be
Con-
tinued?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4564z/>

parallel magic

2011年12月15日17時54分発行